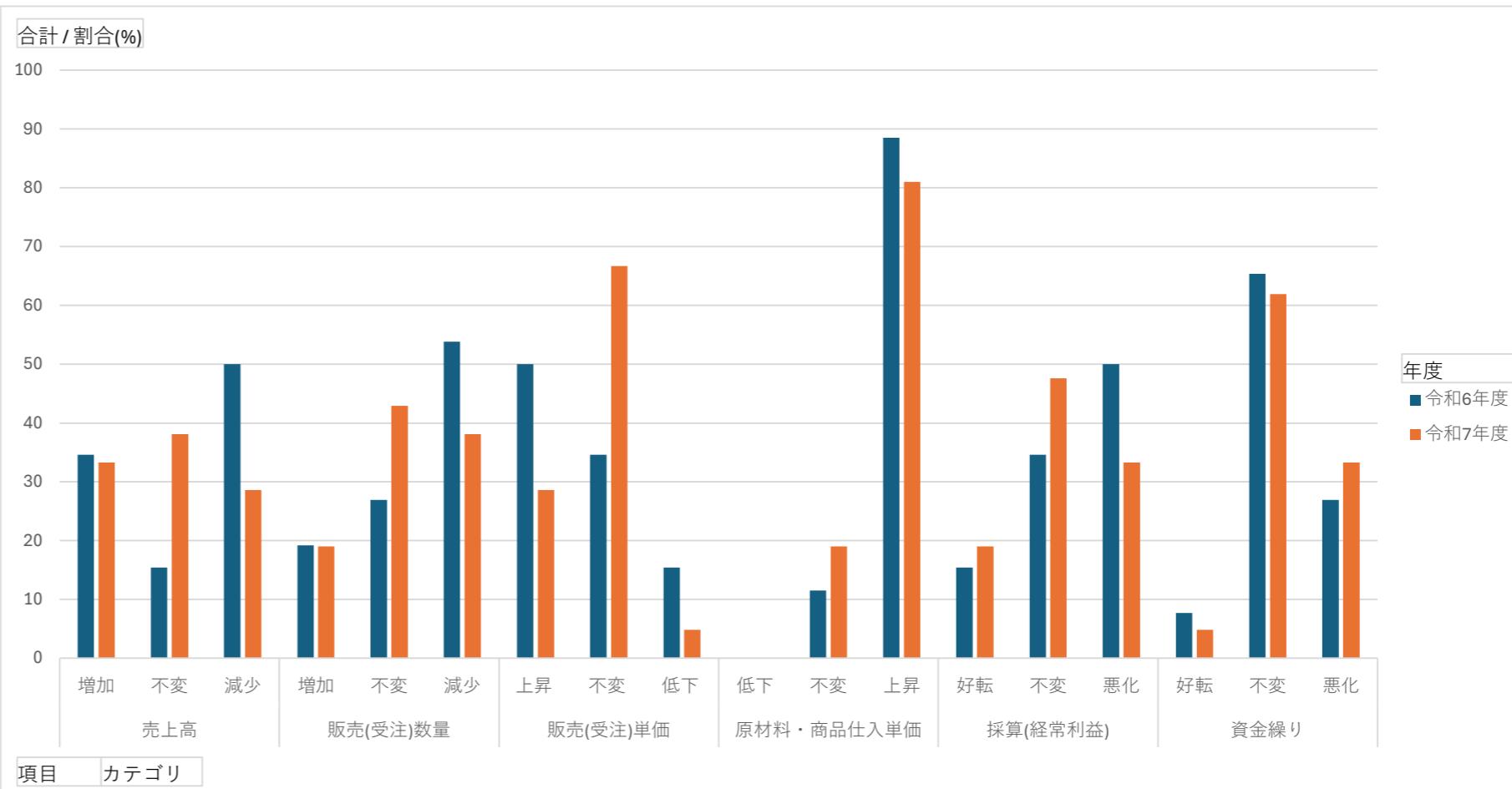


合計 / 割合(%)	列ラベル		
行ラベル	令和6年度	令和7年度	総計
<b>売上高</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>200</b>
増加	34.6	33.3	67.9
不变	15.4	38.1	53.5
減少	50	28.6	78.6
<b>販売(受注)数量</b>	<b>99.9</b>	<b>100</b>	<b>199.9</b>
増加	19.2	19	38.2
不变	26.9	42.9	69.8
減少	53.8	38.1	91.9
<b>販売(受注)単価</b>	<b>100</b>	<b>100.1</b>	<b>200.1</b>
上昇	50	28.6	78.6
不变	34.6	66.7	101.3
低下	15.4	4.8	20.2
<b>原材料・商品仕入単価</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>200</b>
低下	0	0	0
不变	11.5	19	30.5
上昇	88.5	81	169.5
<b>採算(経常利益)</b>	<b>100</b>	<b>99.9</b>	<b>199.9</b>
好転	15.4	19	34.4
不变	34.6	47.6	82.2
悪化	50	33.3	83.3
<b>資金繰り</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>200</b>
好転	7.7	4.8	12.5
不变	65.4	61.9	127.3
悪化	26.9	33.3	60.2
<b>総計</b>	<b>599.9</b>	<b>600</b>	<b>1199.9</b>

地域内景況感調査アンケート結果報告(R6.9/R7.9対比)



#### 地域内景況感調査アンケート令和6年度・令和7年度9月対比分析(一部生成AIにより分析)【調査期間R7.9.1~9.30】

東日本大震災、コロナ禍と、長年削られ続けてきた企業体力を背景に、令和6年度は「売上減少」「採算悪化」が共に50%に達し、極めて厳しい状況でありました。これを受け、令和7年度はこの最悪期を脱し多くの項目で「悪化」が縮小、「不变(横ばい)」が増加しており、一見景況感の悪化は「下げ止まった」ように読み取れます。しかし、これは回復ではなく、長年蓄積したダメージをようやく現状維持で耐えている状態と考えます。

主な理由としては、売上高の「増加」(33.3%)に対し販売「数量」の増加(19.0%)が伴っていないため、売上高の「増加」は販路開拓による積極的なものではなく、コスト高騰に対応する防衛的な「価格転嫁」が主な要因と推測されます。

その「価格転嫁」にも限界が見えており、加えて仕入単価の上昇は8割超と高止まりする一方で、販売単価を「上昇」できた企業は50%から28.6%へと大幅に減りました。これは、コスト高の転嫁が難しくなっている苦しい状況を示唆します。

最も深刻なシグナルは、この「価格転嫁の限界」が利益を圧迫し、唯一「資金繰り」のみ「悪化」(26.9%→33.3%)している点です。売上・利益が横ばいでもキャッシュが回らないという状況は、長年の経営圧迫によるダメージが、企業の存続に直結するキャッシュフロー問題として表面化し始めたことを示しており、極めて強い懸念材料となっています。